



## 「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」  
愛知連絡会  
〒466-8655  
名古屋市昭和区妙見町19-2  
愛知保険医会館内  
TEL : (052) 832-1349  
FAX : (052) 834-3584

# 「保険で良い歯科医療」請願署名愛知で6万を目標に 愛知連絡会が第11回定期総会を開催

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は5月28日(日)午前10時～12時に、愛知県保険医協会伏見会議室で第11回定期総会を開催し、2016年度活動報告、2017年度活動方針などを確認しました。当日は、連絡会構成団体や一般の市民の方々など77人が参加しました。

### 【開会の挨拶】

(大藪憲治会長)

総会議事では、大藪憲治会長から「連絡会創立から10年が経った。当時から、『歯科は混合診療で経営をまかねえ』と言われていたが、私たちは、日常的な診療は保険でできて、国民皆保険制度の下、誰でも安心して歯科医療が受けられるようにすべきだと連絡会を立ち上げた。今日、11

### 回 定期総会



回目の総会を迎えるのもみなさま方のおかげです。ありがとうございました。」と挨拶した。

### より多くの人に歯科医療の重要性を訴えよう！ 2016年度報告、2017年度方針

江原副会長が、2016年度活動報告案・2017年度活動方針案を提案。決算・予算案、役員・世話人体制案とあわせて一括採択された。役員・世話人体制では、新会長に、江原雅博氏（現副会長）を選出した。

### 【2016年度活動のまとめ報告と2017年度活動方針案について】(江原雅博副会長)

大藪先生とは学生時代から一緒に運動に取り組んできました。これからは若い人にこの運動を受け継いで行ってもらいたいと考えています。

昨年度の市民向けの記念講演では佐賀県の増田先生

に食べるということについて、子どもの発達成長に非常に大きな役割を果たしているというお話を伺いました。同時に提供いただいたDVDの映像でも多くのことを学ぶことができました。

また、イレバデーからイハデーまでの期間に歯の何でも電話相談や街頭宣伝、高齢者大会での分科会企画に取り組んで来ました。

昨年度は署名に取り組まない年でしたが、これまでに全国で取り組んだ20年間で、のべ170万を超える署名を集め、国会議員・政府に声を届けてきました。運動の成果は少しづつです

### 2017年度活動方針

- ①「保険で良い歯科医療」を実現する請願署名に取り組む。期間は11月末まで、目標は6万筆とする。
- ②若い世代の離職など、歯科技工士の現状を改善する運動に取り組む。歯科技工士との対話をを行い、連絡会の活動に参加してもらえるよう働きかける。歯科衛生士とも協力関係が作れるよう取り組む。
- ③糖尿病予備群への歯科検診事業の実施、子どもの歯並びの治療の保険適用など、患者・住民の要望を汲み上げて、実現のために県内自治体、関係各所に働きかける。
- ④県内各自治体で「保険でより良い歯科医療を求める意見書」採択運動に取り組む。
- ⑤市民向けの取り組みとして、市民公開講座や出前学習会を開催する。連絡会参加団体と協力して、年齢や対象、テーマなどを広げて取り組む。
- ⑥イレバデー(10/8)からイハデー(11/8)までのアピール月間に街頭宣伝などを行い、歯の健康や歯科医療改善の必要性を訴える取り組みを行う。
- ⑦連絡会ニュースを定期的に発行する。
- ⑧事務局会議・世話人会の定期開催と組織の強化をめざす。
- ⑨「保険で良い歯科医療を」全国連絡会に参加し、全国の運動と協力・共同した活動に取り組む。

が一步一步現れています。

糸切り歯の一つ後ろに白い歯を入れる、アレルギーのある患者さんの被せものに一部保険適用など少しづつ保険の枠を拡大してきてることにも確信を持つことも重要です。

今年度は特に診療報酬改定に向けての運動を進める必要があります。医療、社会保障を巡る情勢は厳しいものがあり、歯科医療も同様です。保険きちんとやって欲しいという願いを実現するために、今年度も運動に取り組んで行きましょう。

特に今年度取り組みたいポイントを紹介します。

### 第11回 定期総会



一つは子どもの貧困問題をしっかりやりたい。二つ目に、共に運動に取り組む団体を県内に広げていきたい。三つめに、署名の目標をやり遂げ、大きな飛躍の年にしたい。歯科の事を理解してくれる人をもっと増やして行きたいと考えています。ぜひ皆さんと一緒にやり遂げましょう。

## 記念講演

### 「超高齢時代を支える 歯科の役割をみんなで考える」

記念講演

超高齢時代を支える  
歯科の役割をみんなで考える

講師：河原

河原 英雄氏

(歯科河原英雄医院院長・大分県佐伯市)

記念講演は大分県佐伯市で開業の河原英雄氏（歯科河原英雄医院院長）に「超高齢時代を支える歯科の役割をみんなで考える」のテーマで開催した。

河原氏ははじめに8020運動など予防歯科を徹底することで高い咀嚼能力が得られるなどを、事例を交えて紹介した。

食物を口に入れると、固い柔らかいなどを脳が認識する。その食べ物を咀嚼することによって舌運動や唾液の分泌を誘発する。そうすると脳が食物を認識することにより一定の食塊が形成され、嚥下のサインが出される。つまり、咀嚼機能が口腔運動を支配するもので、嚥下は咀嚼の結果であるという。

具体的な事例では脳血管疾患で長期入院の結果ねたきりとなった患者さんが、胃瘻を外して退院後に口腔ケアを徹底的に行い、口か

らものを食べられるようになったことにより、全身機能も回復していった症例などを、動画で紹介した。

高齢者の栄養不足は、口腔機能の低下によるところが大きい。噛むこと、特に前歯で噛むことで脳の血流が上がり老化も防止できる。「食べる」は、生きる力を支えることになる。超高齢時代の現在、歯科の大きな役割として、「噛める」入れ歯を、短期間での的確に作り、患者さんのQOLを上げることが求められると述べた。

最後に、超高齢時代は多職種連携の時代であり、他の職種の人と同じ土俵に上がり患者さんを診なければならない。そのためにも歯科医師をはじめとする歯科医療従事者は、医療や介護など歯科医療以外の分野を学ぶことが重要だと述べ、講演を終了した。

### 「保険で良い歯科医療」の実現を求める請願署名

国民のみなさんが、お金の心配をせずに、安心して必要な歯科治療が受けられることを求める署名に、6万筆を目標に取り組んでいます。ぜひ、ご協力ください。



ご協力をお願いします！

「おばあちゃんの看取りを終えて」  
～口から食べていたからきれいだね～

【愛商連の遠山京子さんが  
フロアから発言】

愛商連の会員で働きながら家族を介護された方の文書発言を代読します。

『おばあちゃんの看取りを終えてー結核で隔離病棟での入院で経管栄養となり、3か月後に別の病院に転院して経管栄養の管はとれましたが、飲み込む力は相当弱くなっていました。家に連れて帰るのは不安でしたが、本人の帰りたいという気持ちがわかつっていたので、家で仕事をしながら介護をすることを決めました。それからは大変だったですがケアマネ、主治医、訪問看護師などたくさんの方に協力いただいて、デイサービスやショートステイにも通えるようになりました。食事はミキサー食だったので、できるだけ私たちと同じものをミキサー食にして一緒に食べるようになしました。食べるときはできるだけ車いすに座って食べるようになり、食べた後は口をすくいでもらいました。



亡くなるときは突然でしたが、看護師さんから「最後まで口で食べていたから、きれいな体だね。床ずれもできていないね。」と言われたときには本当に良かったと思いました。』

以上ですが、私も8年前に寝たきりの義母を1年間、お店をやりながら介護しました。

手の空いたときに様子を見る程度で、特に口の中のことは十分に見てあげることができませんでした。体を起こすことが大変で、口をすぐのことなどがなかなかできなくて、気がつくと口の奥に食べ物が溜まっていたこともあります。きれい好きの義母でしたので、十分に見てあげられなくて、残念な思いをした経験があります。



【閉会の挨拶】  
(安藤正男さん)

今年は署名に取り組む年です。講演になりましたように多職種が連携する中で、噛むことの大切さなど歯科の役割や問題がより分かり

やすくなってきていると感じます。直近の問題では歯科技工士の問題があり、月の残業が150時間もあって、もうあきらめるしかないということを言っている技工士がいました。

歯科医療を改善するには、医療費の枠を広げなければ解決しません。そのためにはより多くの人に歯科のことを伝え、わかってもらうことが必要です。

連絡会で署名6万の目標を是非やりとげましょう。